第414号
平成31年
3月 26日

すまいるたうん

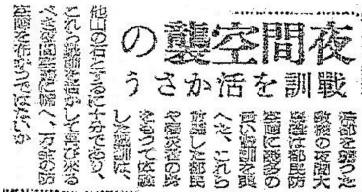
発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚　佳代子
TEL090-2657-0300

昭和二十年（一九四五）三月十二日東京新聞二面より ②

前号に引き続き、昭和二十年三月十二日の東京新聞二面、東京大空襲関連記事より抜粋致しました。●は解読不能の文字です。

夜間空襲の戦訓を活かさう

帝都を襲つた敵機の夜間大空爆は都民防空●に幾多の重い戦訓を伝へた、これら敢闘した都民や罹災者の身をもつて体験した戦訓は他山の石とするに十分であり、これら戦訓を活かして再び来るべき夜間空襲に備へ、万全の防空●を布かうではないか


夜間空襲の戦訓を活かさう

◇消火　爆弾や焼夷弾が雨のやうに落下する場合、或は引続き焼夷弾が落下する場合、初期消火は危険を伴ひがちであるが、全都民が初期消火を敢闘することによつて被害を最小限度に食ひとめ得るのであるから、四方の状況に的確な判断を下して終始敢闘することが必要である

◇武装　消火に敢闘するにも、●避或は罹災して避難するにも先づ武装が第一である、活動を妨げない程度で避難し、身につける物は現必需品を最小限度に止めたい、殊に履物は出来る限り靴がよい罹災した場合にも活動する場合にも靴は大切であり重宝である

◇携帯品　咄嗟にあれこれと取揃へたり、沢山の荷物は運び出すのに困難な場合が多い、平常から　●●●類と壊れない食器類、簡単な医薬品位に止めたい、得に大切なのは家庭総合配給手帳である

◇勘を働かせ　●の情報を聞くも待避するにも、或は消火に●る際、避難する場合、何れにも勘を働かせて的確な判断を下すこと　特に延焼する場合とかく贔屓●めで自宅はまだ大丈夫だと思つて手遅れになりがちだから、相當て的確な判断の下に決断を必要とする

◇日本橋區某町會長の話

近くの国民学校に避難した罹災者の前に町会長が現はれた、昨十日夜のことである、ボロゝぶ破けた服を着て、顔などに怪我をしてゐる、皆さん、御災難でした、お疲れでしたでせう、しかし、この災難を災難でなくするには私達は今から起ち上がらねばならないのです。いまゝで、お世話も十分に出来ませんでしたが、今後の保険金その他のことは私が責任を負ってひき受けます、皆さんも大いに頑張つて下さい、私もこれから家族を疎開させて、あくまで戦ひませうこの戦争が勝つてからでないと或は皆さんの中にはお目にかゝれない方もあるかも知れませんが、どうぞお元気で、奴等に負けてたまるもんですか　皆を激励しながら、この町會長は泣いていた、聴く者も一様に涙を流したが、話が終るや場内は拍手の嵐だつた

二つある物は互に頒けよう

「アメリカの畜生ども！この仕返しをしないでは死んでも死にきれぬ」荒涼たる焼野原に罹災者は起ち上つてゐる、一●は断じて此の罹災者の希望をかき消してはならない

◇・・罹災者は全部と言つていゝ程着の身着のまゝの身一つだ、中には履物さへなく裸足にボロを巻いて歩いてゐるものさへある、これを黙つて見過ごしてをられる筈がない、果して都民は挙って下駄を草履を持つて、これらの氣の毒な罹災者を追ひ駆けて渡した偉いのは此の氣持ちである、罹災者の数は多い、都から配給になる下駄がある筈だが、これが全員に渡るまでは相當日数がかかるのだ、そして衣類も寝具も食器類も皆下駄と同様に、否下駄以上に不足してゐる、さあ今こそ此の品々を罹災者のために供出しよう、四つある人は三つを二つ持つ人は一つを、そして己れも共に簡素な戦時生活に突入しよう

都民は関東大震災の惨禍を忘れてはゐない、あの●●の中に生れた一億の同情を忘れてゐないそして帝都は逞しく再建されたのである、しかしいまは苛烈な戦局のなかにあたつて、當時に比べ総てが●屈だ、遠く北海道、四國からの同情を早急に頼むは無理である、この時、あの震災のときの援護の波を都民の力で生み出さなければならないのだ

昭和二十年三月十二日東京新聞一面（左図）

東京新聞
秋の此に正機神はせ化戦士皇
億凝集断して勝つ
我に地の利人の和
敵殲滅の確算あり
玉名山皇軍總攻撃